

活動報告書

報告者氏名：吉田 彩姫 所属：都立墨東特別支援学校 かもめ分教室 記録日：2013年2月22日

【対象児（群）の情報】

- ・学年 中学部1年
- ・障害名 CHARGE 連合 (C：両側脈絡膜欠損 H：動脈管開存 術後 A：後鼻腔閉鎖
R：成長障害・精神遅滞 G：性器形成不全 E：難聴 耳介奇形)
右顔面神経麻痺、口唇口蓋裂 術後、気管軟化症（単純気管切開）
- ・障害と困難の内容

本生徒は難聴のため、ことばでの指示より、視覚提示での指示が入りやすい。そのため、写真カードを多様しているが、カード類が好きで、カードの角を唇に当てたり、カード自体を頬に押し付けたり、カードをひらひらさせて遊びだす傾向がある。学習面でも、外に出て遊ぶことや、全身を使った遊具遊び等が大好きであり、机上学習の集中が続かない。言葉による指示が入りにくいため、見ただけで課題が理解できないと、遊び始めてしまう。

また、本生徒の要求方法はクレーン現象であり、サインでの表出はほとんどない。そのため、嫌なことがあったり、予測しないことがあったりすると、怒りを爆発させて問題行動をおこす場合がある。

【活動目的】

- ・当初のねらい

本生徒は、授業では教員が来ると「学校だ」と喜ぶような様子で、その場その場での状況を見て適応していくという様子である。したがって、日付や曜日の感覚がほとんどなく、活動の見通しをもてていない。活動に見通しをもてないとイライラが募り怒りを爆発させることもある。そこで、学校では曜日毎に活動を定め、活動の見通しをもたせ、活動によって曜日の意識付けをすることを目標とした。また、机上学習の時間を確保し、学習の継続を図りたいと考えた。

意思表示についても、ipad を補助として使用し、伝えられるようになると良いと考えた。

- ・実施期間

平成24年12月3日～

- ・実施者：吉田 彩姫
- ・実施者と対象児の関係：担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・対象児（群）の事前の状況
- ・活動の具体的内容
- ・対象児（群）の事後の変化

日付けや曜日の感覚を身につけるために、「おたすけごまっち！」のアプリの「いちにち組み立てえほん」のカードを利用して、活動の写真と組み合わせ、曜日毎に活動をスライドさせて活動を見て分かるようにした。そうすることで、生徒本人が写真をスライドさせ、活動を見て授業の流れを意識できるようになった。自分の好きな活動には顔を近づけてずっと見ているので、画面をスライドさせて戻し、「この活動が終わったら次はこの活動ができる」というように提示すると、好きな活動の前の活動も意欲的に取り組めるようになった。曜日の意識づけまでにはまだ至っていないが、継続していきたい。



今後は写真の中からやりたい活動、行きたい場所等を自分で選んで意思表示することをねらっていきたいと考えている。

机上学習時間の確保について、24年度の4月当初は椅子に座ることができず、床に寝転がってしまったりすることが多かったが、少しずつ机上学習の時間を確保するようになってきた。ipad 導入前までに20分程度まで学習できるようになっていたが、本生徒の大好きな「I love fireworks」アプリや、「きらきら」や「axylophone」のアプリを使って学習が終わるとipad を使えるという目標があることで、40分程度まで学習できるようになった。また、教室に入ると自ら机に向かう程、意欲的に取り組めるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・主観的気づき

本生徒は、きらきらしたものが大好きである。きらきらしたものがあると、飽きることなく眺め続けている。また、写真等も好きなので、本等でもガイドブックのような写真入りのものを好んで眺めている。そのため、上に挙げた「ilove fireworks」や「きらきら」のアプリは好きだろうと予測していたが、ipad 導入の初日から興味・関心が高く、アプリの画面をじっと見たり、自分で画面をスクロールして楽しむことができた。

自分で直接働きかけることで変化があるので、自分でipad の操作についても学習することができた。始めは、ipad 上のボタンが気になり、押し続けて、アプリが始まってもホーム画面に戻ることを繰り返していたが、何度か行ううちに、「ここを押したら、楽しい活動が終わってしまう」ということに気がつき、そのボタンを押すことはなくなった。

また、活動内容の把握で写真をスライドさせる際、左手を画面上において右手をスライドさせるとうまくいかないことに何度目かで気がつき、上手に写真をスライドできるようになった。

また、普段は補聴器をつけることを嫌がり、あまり聴覚情報に意識がむいていないが、「axylophone」のアプリを使っているときは耳を近づけて音を聞こうとしている様子が見られたことがあった。音量を調整できることも、本生徒には効果的であったようだ。

導入期間が短かったので、そこまで至らなかったが、続けていけば自分でやりたいアプリを選んで起動することも可能になりそうだと感じた。

- ・エビデンス（具体的数値など）

- ・その他エピソード（画像などを含めて）

Ipad を回して遊びだすことが合ったが、台を利用して目の前に持ってこられるようにすることで集中力がぐっと上がった。Ipad に興味を持ったことで、他の学習への意欲も上がり、よく課題を理解しようとするようになった。

